



# 3月8日は国際女性デーです

## 国際女性デーって??

この日は、国や民族、言語、文化、経済、政治の壁に関係なく、女性が達成してきた成果を認識する日で、国際婦人年の1975年に国連で提唱され、1977年の国連総会で決議されました。

「国際女性デー」は、北米とヨーロッパ全域で20世紀初頭に現れた労働運動に端を発しています。

女性たちの勇気と決断をたたえるとともに、広く女性の社会参加を呼びかけるための記念日です。

近年は「女性が社会で活躍する機会は増えてきている」と感じている方が多いのではないのでしょうか。しかし、世界の国々と比較すると、かなり遅れを取っています。

「国際女性デー」は「ミモザの日」とも呼ばれており、欧米では、春の象徴であるミモザの花を、男性が感謝と敬意をこめて女性に贈る風習もあります。

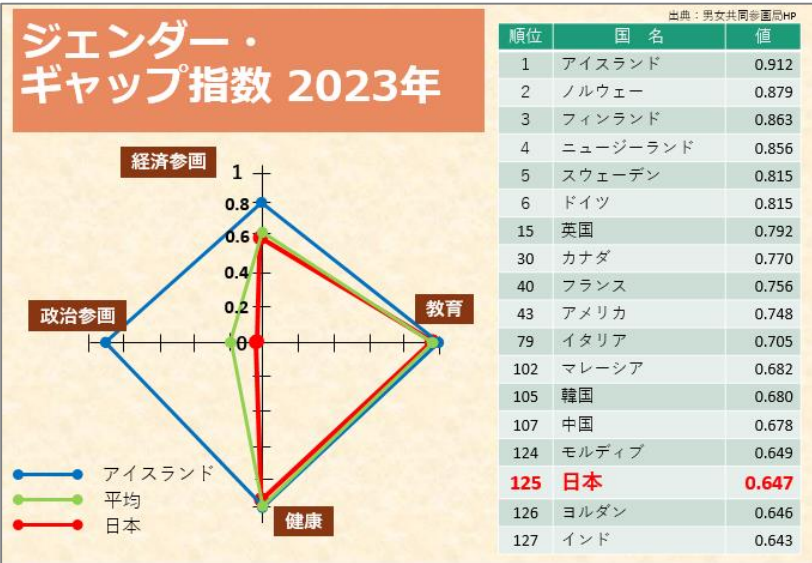
身近におられる女性の活躍を今一度たたえていただければと思います。

### ジェンダー・ギャップ指数 2023年

- ・ スイスの非営利財団「世界経済フォーラム」が公表
- ・ 男性に対する女性の割合（女性の数値/男性の数値）」を示しており、0が完全不平等、1が完全平等
- ・ **日本は146か国中125位**
- ・ 「教育」と「健康」の値は世界トップクラスだが、「政治」と「経済」の値が低い。

「ジェンダー・ギャップ指数」男女格差を数値で表したもの

日本の女性活躍は遅れているのが分かります。



この順位は、先進7か国（カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、英国、米国）中最下位であり、日本が属する東アジア・太平洋地域の19の国の中でも最下位です。



# 男女共同参画センターからのメッセージ



男女共同参画といっても

結局のところ、男、女、大人、子どもに関係なく、できることをできる人が  
できる時にすればいいのではないかと思います。

男性だから〇〇をしてください。

女性だから〇〇をしてください。

誰が何をすると決めてしまうから、できてないと怒ったり、怒られたりするのではないのでしょうか。

男女共同参画は、遠くにあるのではなく、自分の中にある。そんな気がします。

一番近い家の中で考えてみると...

家事と言われる「家の用事」

料理、洗濯、掃除、買い物、お風呂の用意、ゴミ捨てなど。

大きなくくりで「すること」をあげましたが、それに伴う多くの作業があります。

昨年講演会にきていただいた野々村友紀子さんが「家事リスト」を挙げられています。

先に挙げた料理や洗濯など、これらは家の中で整っていて当たり前のように

思われますが、当たり前ではないと思います。誰かがしてくれているから、

ごく普通のように整っていますが、その誰かは誰なのでしょう。

多くの家庭では、女性が担っているのでは。

家の大事な用事です。みんなですればいいことかなと思います。

できることを、できる人が、できる時に、できる分を、

みんなですると一人の負荷が小さくなるように思います。

やってみて初めてその大変さもわかります。

「当たり前」が「ありがとう」に変わるときかも。

できていて「当たり前」ではなく、誰かがしてくれているから「できている」ことを忘れてはいけません。

子どもたちは大人の姿を見て育ちます。

家の中で男女共同参画ができていると、子どもたちもそれを見て真似ていきます。

男女共同参画は身近なところにあります。

みんな「当たり前」になっていないか、少し考えてみてはいかがでしょうか。

